

説教余滴 2020年5月10日《惻隱の情》

いつの頃だったのでしょうか。学校のいじめ問題で、その原因は他の人の心を思いやることができないからです、と語られていました。同じことを、想像する力の欠如です、とも説いていました。かつての日本人の中から消えつつある言葉「惻隱の情」が相当します。

私達日本人には 昔から備わった道徳があります。その中に卑怯なこと、恥ずかしい事をするなど教えられてきました。その元になるのが「武士道精神」です。

『武士道』は新渡戸稲造（1862～1933）が明治32年に著したもので、日本人の魂を西洋人に理解して貰おうと出版したものです。

慈愛、誠実、忍耐、正義、勇気、名誉、恥、惻隱（敗者・劣者・弱者への思いやり）を精神の真ん中に置いて 行動や判断をすること。この本は発売されるや、世界中に広まり、日本への理解が深まったそうです。

「惻隱の情」は武士道精神の一つです。

孟子も「惻隱之心 仁之端也」（他に対して哀れみ、いたむ心は 人として最高の徳である）と 言っています。

惻隱（そくいん）の情とは哀れに思う気持ち、可哀想であると感じる心持ちのことで、中国の古典である孟子の言葉から来ている四端のひとつです。

端（たん）とは、始まりを意味します。「端緒」という使い方がありました。

ちなみに、四端とは、

「惻隱」（そくいん、他者を見ていたたまれなく思う心・思い遣る心）⇒ 仁の端

「羞惡」（しゅうお、不正や悪を憎む心）または「廉恥」（恥を知る心）⇒ 義の端

「辞讓」（じじょう、譲ってへりくだる心）⇒ 礼の端

「是非」（ぜひ、正しいこととまちがっていることを判断する能力）⇒ 智の端

現代の政治家は、四端も惻隱も知らずに大きくな

りました。上から下まで廉恥を知らず、一身の栄
達を求め、他人の不幸は蜜の味、と喜ぶ様子です。
古典から、聖書から学んでいただきたいものです。